

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103592		
法人名	医療法人 むすびの森		
事業所名	グループホーム 萌		
所在地	熊本県熊本市南区会富町1120番地		
自己評価作成日	令和5年 10 月 26 日	評価結果市町村報告日	令和6年 1月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和5年 11 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの理念でもある「心に寄り添った介護」を目標に、お一人お一人がその人らしく、安心して過ごして頂ける個別ケアに努めています。食事面では、買い出しから調理迄を職員が行っており、入居者様からリクエストには柔軟に対応できる為、より家庭的なホームとなっております。また、同法人がかかりつけ医となり、急変時等にも医療との連携ができており、施設内には看護師も配置されており、日常の些細な変化にも柔軟で迅速な対応ができる面でもご家族の安心感にも繋がっています。近年は感染症の感染防止の点から自粛している面もありますが、地域行事(町内活動・交流会等)には積極的に参加し、地域の中の施設である為触れ合いを大事にしており、状況に応じ再開していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に親しまれた病院に併設する事業所では、馴染みのある田畑の様子で四季を感じることができ、穏やかな生活が営まれています。理念である「心に寄り添った介護」のもと、職員の皆さんも「家族」としての生活が送られていました。職員面談でも「仕事優先だと『ちょっと待って』になるため「家族として」接している日頃の様子が聞かれ、「入居者は認知症ではあるものの、それぞれの人生がある」ことを大切にされたケアの様子が見えました。入居者の毎日の生活も思い思いの時間が流れ、職員手作りの食事を一緒に食べ、家庭で過ごすようでした。家族の協力も大きく、「共に支える」姿が見える事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき毎年年度計画を作成して、毎月勉強会を実施している。理念を目標とした共有を図り、実践につなげている。	パンフレットや事業所の掲示等で入居者・職員・家族等への共有を図っている。職員面談でも理念である「心に寄り添う介護」を基に「家族として」入居者に接する様子が聞かれた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この3年は新型コロナの感染による影響で当施設内での交流は自粛している。施設外には昨年秋には少人数で花壇の花植えやサロンなど参加して、なるべく交流が途切れないように努めている。	コロナ5類移行後、少しずつではあるが地域での活動が再開され、入居者の体調等によりできる限りの交流が始まったところである。地域との関わり再開については、タイミングや支援方法等、課題ととらえ検討を進めているところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを毎月開催して地域との交流を深めていたが、この3年間はコロナの影響で自粛している。今後感染状況を見ながらサロンの再開や地域に向けた支援方法など要検討していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、コロナの影響で一時は書面代替で実施していたが、併設病院で開催している。ホームの活動報告や、入居者の現況報告、身体拘束定例会や意見交換を行い、サービス向上に努めている。	感染症拡大状況により開催を検討しながら、この2年は法人の病院で開催している。地域では公民館行事が活発に行われており、再開についても検討している。職員の身体拘束不適切ケアに対する取り組みについても毎回報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の事など市に相談や報告し、必要時は届出書を提出している。コロナ感染対策野取り組みや、感染者発生時はこまめに情報交換を行い、支援チーム派遣を依頼、施設内療養の助言や指導を得ている。	市へは日頃の報告・連絡・相談で協力関係の構築に努めている。地域では公民館行事が活発で、従来より入居者・職員の参加や協力も多くみられる。コロナ禍では市・保健所等の指導も受け、対策に取り組んだ。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会は年間計画を立てて、法人内やホーム内で実施。又、身体拘束委員が職員にアンケートを行い、カンファレンスを実施し、入居されている皆様の安全に配慮しながら、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止委員会」担当職員を中心に、身体・言葉・薬等についても取り組んでいる。今年度は介護職員各自のスマールステップの目標設定・実践にも取り組み、振り返り、報告会も行った。勉強会や取り組み状況は、運営推進委員会でも報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間勉強会に組み入れたり、職員間で虐待の芽チェックリストを実施して意見交換するなど環境を作っている。法人で全職員のストレスチェックを実施し、メンタルケアの相談窓口を設置し、虐待防止に努めている。		

グループホーム 萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間計画の中で職員に権利擁護や成年後見制度について研修を行っている。又、認知症野勉強会の中でも、職員は利用者本位のケアのあり方(個々の人に応じたケア)を考える行動につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約時は内容を家族に説明して、内容に理解や納得して頂き、署名捺印を頂いている。介護保険改正時や運営上変更時は文書や口頭で説明して理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	この3年間は感染対策や面会制限があったが、昨年の6月から週に1回居室での面会となり家族も安心されている。家族には、お便りや電話で生活の様子を報告している。家族会や運営推進会議での意見を頂き、運営や感染防止多作に反映させている。	コロナ禍中には感染状況により都度検討しながら面会時間等の制限を行ってきたが、入居者と家族の関係が希薄にならないよう配慮を続けてきた。家族の気持ちは本人の安心にも繋がるとした支援を継続している。遠方の家族にも手紙や電話で状況報告を行い、家族の意見を出しやすい環境作りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週カンファレンスを行い、運営や入居者のニーズに沿える意見交換している。この3年間は感染対策や面会などを踏まえて提案されたことが反映できるように努めている。	日頃から職員は管理者へ意見を表しやすい環境である。毎週のカンファレンスは各ユニット職員で開催しており、その際にも意見を表すことができる。職員からの意見は管理者、必要に応じて法人にて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告や現場での職員の意見を参考に職場環境や条件の整備に努めている。(研修の機会、資格取得の機会、法人内からの応援依頼、賃金見直し、施設整備、園芸など)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修はここ3年はコロナの影響でZOOM研修、介護福祉士取得などの自己研鑽に努めている。法人全体の研修や委員会に参加して、情報の共有やコミュニケーション力などに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中でできるだけ、外部の研修に参加できるよう努めている。その中で圏域の高齢者支援センター主催のた事業所との意見交換会などに参加したり努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、普段の施設内の様子を見て頂ける様にまず見学をして頂き、ご本人の話を傾聴し、要望にも柔軟な対応を心掛けている。まずはご本人にとっての安心が確保が出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、普段の施設内の様子を見て頂ける様に見学を促している。ご家族の話を傾聴しこちらからも質問をさせて頂き、ご家族の不安な気持ちに寄り添い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって「今・現在」困っている・不安な事は何かを聞き取りだけでなく、生活の様子観察等を行い見極めに努めている。必要に応じて他職種への相談を行い、その方にとって必要な支援に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設の理念でもある「出来る事を大切に」を基に認知症を患っても、ご本人のできる事は維持できる様に、どの点に支援を要するのか？を検討しながら、ご本人の残存機能を活用させて頂くケアに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって「家族」は大切な存在である事、ご家族にしかできない役割がある事を理解して頂き、毎月のお便りや来訪時、時には電話を通じてご本人の様子をお伝える等協力関係の維持に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が希望された時や話の中でおっしゃられた場合等に電話をかける、行きたい場所がある場合はご家族へ相談する等できる限りご本人の要望に叶えられる様に努め、地域の方と顔見知りの場合も多い為、散歩にでる、地域行事絵の参加も積極的に参加出来るように努めている。	従来より地域・地域住民との関わりも多くみられていたが、コロナ禍で難しい状況もあった。コロナ禍では家族との関係が希薄にならないよう、法人内の病院以外の通院介助や外出、一時帰宅等、家族協力による支援を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を考慮しながら、食事席等の調整をしている。入居者同士の関わりがスムーズに行えるように職員はフォローに努め、馴染の関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の悪化等にて入院、退居となる場合等にも、受け入れ先への情報提供に努め、ご本人の人柄や特性をお伝えする様に努めている。退居後もいつでも連絡・相談を受ける事をお伝えし、関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で伝える事が難しくなられても、その方にとって心身ともにお穏やかな暮らしが継続出来るように職員は支援方法を検討する時には、本人視点で考える様に心掛け、入居者個性を大切に柔軟な対応に努めている。	理念でもある「ひとりひとりを尊重」「その人らしい生活を大切」にするケアが行われており、入居者の気持ちを大事にした日常生活が送られている。年々認知や身体状況の変化も見られ、難しい場面も見られるようになったが、入居者の「言葉」を大切に、希望・意向の把握に努め支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中でさりげなく生活歴等を聞かせて頂けるような声掛けをしながら、得た情報は職員間で共有できる様にしている。ご本人や家族とのコミュニケーションを取る事で得られる情報が多く、関わる事・傾聴する事を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日2回のバイタル測定・様子観察を行い日々変化される入居者の状態を把握し、1日の過ごし方もその日、その時のご本人に寄りそった支援を行える様に職員は努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護はチームケアである事を職員は理解し、医療法人であることから常に多職種への相談・助言を受ける事ができる環境にあり、ご本人の状態に応じモニタリングを実施し介護計画作成・変更を行う様にしている。	担当職員を中心とし、計画作成者と共に3ヶ月を基本としてモニタリング・評価・見直しを行っており、毎週のカンファレンスで入居者の状況を共有している。入居者の状況は家族へも随時電話やおたより・コメント等で伝え共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録には、ご本人の言動を始めその時対応した方法、結果等を今後のケアに活かしていける様な記録の記入に努めており、日々のご様子を観察し、対応方法の工夫へ繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人だけでなく、ご家族の状況にも配慮し、要望にも相談をしながら可能な限り臨機応変な対応を心掛け、柔軟な対応に努めている。		

グループホーム 萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源とは何があるかを知る為、職員は外部への研修に参加等で、学ぶ機会を作っている。また、交流サロンや町内行事等への参加は積極的に行っており地域の中の施設である為に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人がかかりつけ医となっており、円滑に連携が行なえる。外部医院診察の場合は、家族対応になっている為、情報提供を行ったり、状態に応じては管理者(職員)も診察時に同行し、相談や連携に努めている。	入居以前のかかりつけ医の継続した受診を支援しているが、現状全入居者が法人内の病院をかかりつけ医とし通院している。外部の専門医等受診の際は家族による通院を基本とし、必要に応じて職員も同行する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各フロアに看護師が配置されており、入居者の些細な異変時にも報告、相談ができる環境であり、看護職の適切な判断・指示を受け対応する事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換を重ね、本人の状態を把握し、ご家族と相談しながら意向に添えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した場合のご家族の意向を確認している。また実際にそういった状態が予測できる時点で更に本人・家族・主治医等も含め以降の方針を相談し、出来る限り本人・家族の意向に添えるように努めている。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明している。実際にその時期を迎える際には入居者・家族、関係機関と話し合いを重ねて支援を行っている。現状では医療的な措置が必要となった際には入院となる例も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や痰の吸引のやり方等、事故発生時に備えて学習会を実施している。法人の協力を得て支援体制を構築して職員が対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回地震・水害を想定した避難訓練を実施している。車椅子の方をエレベーターを使わず2階から1階への降ろす訓練等を行いながら非常時に備えている。また運営推進委員には町内消防団長にも加わって頂いており協力関係の構築に努めている。	自然災害はあまり心配のない地域ではあるが、2階建てであることから、水害想定で1階から2階へ、地震想定で2階から1階への垂直訓練を行っている。外部からの応援も想定し、入居者居室入り口に「要介助」等の札を準備している。運営推進会議でも地域への協力を依頼している。	予測できない自然災害に備えた訓練が行われています。地震想定での訓練では歩行できる入居者のみの参加でしたが、全入居者での避難訓練も必要と考えます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止委員会を中心に、不適切ケアについても学習会を実施し、職員は自身が行っているケアの振り返りの機会を設けている。入居者の人格を尊重し、プライバシーに配慮したケアに努めている。	担当職員を中心とし、特にトイレ使用時や入浴時に配慮している。勉強会は担当職員を中心として進めており、計画的に繰り返すことで職員の自覚・心掛けに繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が、思いや希望を表現しやすい働きかけを心掛けている。利用者の想いに寄りそった言葉掛けができる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、排せつ等生活リズムは出来る限り本人のペースに添える様、声掛け時の本人の返答に応じ柔軟な支援を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回美容師が来訪し散髪、希望される方は白髪染めも行える。更衣時には同じ服ばかりにならない様に気をつけ、また自身で選ばれる方のタンスは定期的に衣類を入れ替え等行い配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が買い出し～調理迄行っており、家庭的なメニューが多く提供できる。月に1回調理レクを実施しており入居者を中心におやつ等を作り楽しんで頂いている。	献立作成から各ユニットそれぞれで職員が行っており、入居者のその日の体調等にも臨機応変に対応できる。天気の良い日には昼食をお弁当にしてテラスで楽しんだり、レクレーションとしてのおやつ作り等も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回同法人医院より管理栄養士のミーラウンドがあり実際の食事場面をみて頂きながら、相談・助言を受けながら、個々によって食事・水分提供方法が工夫されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを支援し、異変時には歯科往診依頼ができ、治療始め、義歯調整や定期的な口腔清掃を行える。毎月歯科医師より口腔に関する情報や助言を頂き、口腔内の清潔保持に取り組んでいる		

グループホーム 萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを考慮し、その方に合った声掛けやタイミングで、誘導・介助をしている。変化時、都度カンファレンスを行い、支援内容を変更している。	日中は排泄パターンにより声掛けや誘導等で、できるだけトイレでの排泄に向けた支援を行っている。夜間のポータブルトイレ利用や必要に応じたパット・オムツ等の使用はカンファレンスにて検討を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に水分補給の声掛け・提供を行っている。牛乳やヨーグルトを取り入れた食事や、飲み物の提供をしている。便秘気味の方は、主治医に相談し緩下剤の処方を受けている。生活レクレーション時に体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表、記録にて、個人の入浴状況を把握している。その方に合わせた声掛け、タイミングで、入浴支援を行っている。	週3回以上の入浴を基本としている。寒い時期には朝からストーブで温めたり入浴剤を使用し、声掛けで拒否がある際にも時間を置いて再度声を掛ける等、心地よい入浴支援を行っている。汚染があった際には朝の入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調、表情などで日中の臥床時間を設けている。日中は、何種類かのソファにて、個人に合ったソファで過ごして頂いている。夜間は、個人のペースに合わせて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後は、報告ノートで処方の変更や、内容を確認している。変更後の状態チェックを行っている。服薬セットは、その日の担当が行い、セット後のチェックを2人でやっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の状態に合わせて、その方が得意とされていた、野菜の皮むき、茶碗洗い、台拭き、掃除、洗濯物畳みなどの家事を依頼して頂いている。体調、天候によって、畑の草取り、散歩の支援、ゴミ出しを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等感染予防対策もあり、外出許可が出ず、少人数で公園など散歩は体調や天候によって実施しているが、入居者さんの希望による外出は特段の事情以外は控えていただいている。	コロナ禍では気軽な外出支援が難しい状況であったが、近隣の散歩や施設内で外気を感じる取組みは継続してきた。今年度はドライブの機会もあり、お正月の一時帰宅等、情勢を検討しながら支援の再開を検討しているところである。	家族の協力もあり、専門医への通院も外出の機会とし支援を行っている様子が確認できました。お正月の一時帰宅や家族との外出等が再開できるようになった際には是非実現に繋がるよう期待しています。

グループホーム 萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を持っていらっしゃる方は少数で、ほとんどの方は、金銭管理ができない。ご家族から依頼を受けた方は、責任者が小遣いとして預かっている。散歩時に、ジュースを購入したりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、ご家族に電話を掛けている。遠方にいる子供さんから定期的に電話があり、本人さんも喜ばれている。手紙を頂いた時は、スタッフが読み上げたり、手紙と本人様の撮影写真でお礼を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の出入り口に名前を表示している方もいらっしゃる、名前を見て、安心して出入りされている。月ごとに入居者さんの生活写真での壁紙を入居者さんと作成し、移動時眺められている。	この数年、特に事業所内の行事にも力を入れ、日々の生活を楽しむ様子が写真におさめられており、入居者による絵も飾られ、通りすがりに立ち止まる入居者の姿もある。明るく穏やかな空気の中、共用空間には食卓の他にソファも複数あり、新聞を読んだり思い思いの場所で過ごす姿もある。リビングでは入居者同士日々会話する姿も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごされるフロアでのソファの位置を工夫している。食事時の席は、個人の性格、食べ方によって、都度カンファレンスを行い、ゆっくり食事して頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、なじみのある物を持参して頂いている。ご家族との写真を飾ったり、ご自分で作られた作品を飾られている。	入居時には慣れ親しんだ生活用品の持ち込みを依頼しており、仏壇や家族写真、テレビソファも見られる。ソファでは面会時家族と過ごす姿もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ前に赤ちようちんに大きい字でトイレと表示している為、赤ちようちんでトイレを把握されている。危険がないように、見守りしやすい様に、フロア内をさえぎらないような家具の配置を工夫している。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム萌

作成日 令和6年1月9日

### 【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	予測できない自然災害に備えた訓練（水害・地震）を実施しているが、地震訓練時入居者全員での避難訓練までは至っていない。	地震を想定した訓練時は入居者全員で避難訓練を実施し災害対策に繋がるようにする。	現在実施している水害や地震訓練の取り組みを継続するが、具体的な内容を修正して全員で実施できるようにする。	1 2 カ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。